

10 お世話になった人に挨拶をする

1 次の会話を聞いてみましょう。



ここでは、どんなインターアクションがいかを考慮してもらうために、同じ場面、同じ人物による会話 A（うまくいかなかった例）と会話 B（うまくいった例）の 2 つの例を提示しています。

(1) 【場面】を理解する

- 学習者に【場面】を読ませて、誰（＝パク）が、どこ（＝アルバイト先の店）で、何をする状況（＝同僚に帰国の挨拶をする）なのかを学習者に正確に理解させます。
- 必要に応じて、「パクさんはいつ帰国しますか」などの質問をして、学習者の理解を確認するといでしょう。

(2) 会話 A・会話 B を聞く

- まず、会話 A を聞きます。ここでは、会話のスクリプトを読んだだけではわからない話し方（話すスピード、トーンなど）にも注目してもらうため、1 回目は会話のスクリプトは見ないように学習者に指示します。ただし、p. 190 の 3 枚の絵は内容の理解を助けるので、必要に応じて見てもいいことにします。
- 次に、会話 B を聞きます。会話 B は会話 A とまったく同じ登場人物と同じ場面です。うまくいった例を挙げています。ただし、会話 B はモデル会話ではなく、あくまでも 1 つの例として考えてください。（会話 B の会話スクリプトと英語の翻訳は別冊にあります。）

(3) ペアやグループで気づいた点を話しあう

- 学習者が気づいた会話 A・会話 B の違いを p. 191 の記入欄（「会話 A・会話 B を聞いて、気づいたことを書いてください。」）に書いてもらいます。まず、各自で考えてもらい、その後、ペア／グループで気づいた点を話しあいます。
- 日本語で表現するのが難しい場合は、まず、母語で書いてもらってもいいでしょう。
- 気づいた点が出てこない場合は、会話 A のスクリプトの気になる部分に線を引き、「なぜ気になるのか」「自分だったらどのようにするか」などについて考えてもらうと、具体的な点が出てきやすくなります。
- ここでは、次のような点に学習者が気づくことが期待されます。

メール A の問題点	メール B のいいところ
<ul style="list-style-type: none"> ・パクは、高橋さんに偶然に会った機会に、突然、帰国の挨拶を切り出している。 ・高橋さんにどのようなことで助けてもらったかが具体的に挙げられていなくて、うまく感謝の意が伝えられていない。 ・高橋さんから出された共通の思い出やエピソードの共有ができていない。 ・お礼のカードを渡す際の言葉が、適切でない。 ・慌てて挨拶を切り上げることになり、別れの挨拶としてまとまりがない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パクは、前もって高橋さんに帰国の挨拶をする機会を設定している。 ・帰国の挨拶であることを、感謝の意とともに最初に伝えている。 ・共通の思い出やエピソードを共有しながら、会話のやり取りが進んでいる。 ・用意したお礼のカードを適切な言葉とともに手渡し、何が書いてあるかの説明を加えている。 ・今後の連絡につながるような言葉を添えて、別れの挨拶をまとめている。

(4) ペアやグループで気づいた点をクラス全体で出しあう

- 各ペア／グループの代表者に、気づいた点を 1 つずつ挙げてもらいます。
- 「会話 B の会話のほうがいい」など、大まかな指摘しかなかった場合、「どうしてそう思いますか」などと質問し、具体的な点を出すよう促します。
- ここでは気づきを促し、PART 2 以降の学習への動機を高めるのがねらいです。上に挙げた（気づきが期待される）点のすべてを学習者から出してもらう必要はありません。また、「会話 A の〇〇のほうがいい」など、教師が期待していない答えが出てくることがありますが、学習者に自由に意見を述べてもらうようにしましょう。
- PART 2 <インターアクションのポイント>が終わったあとに、もう一度会話 A と会話 B を聞くと、インターアクションのポイントが明確になり、効果的です。

【補足】

帰国や別れの挨拶をまとまりのあるものにし、これまでの感謝の気持ちをうまく伝えるには、落ち着いて挨拶することができる機会をあらかじめ設定しておくことも重要であることについて、考えさせるといいでしょう。